読むことに慣れ親しませる外国語活動の指導の工夫
― 児童が絵本を使って読み聞かせる活動を取り入れた単元づくりを通して ―

竹原市立中通小学校　川端　宣彦

研究の要約

本研究は，児童が絵本を使って読み聞かせをする活動を取り入れた単元づくりを通して，読むことに慣れ親しませる外国語活動の指導の工夫について考察したものである。文献研究から，読むことに慣れ親しませるには，アルファベットには音があることに気付かせた上で，音とアルファベットを結び付けさせ，語句を見ながら声に出して読ませることが必要であり，そのためには，英語の絵本を使った読み聞かせが有効であることが分かった。そこで，本研究では，児童が『Brown Bear ,Brown Bear, What Do You See?』の絵本を使って第４学年児童に読み聞かせをする活動を取り入れた単元づくりを行った。児童が相手意識をもって読み聞かせの工夫を考え，下級生に対する絵本の読み聞かせをする活動を行った結果，児童は読むことに慣れ親しむことができ，読むことへの興味・関心を高めることもできた。

キーワード：読むこと　絵本　児童による読み聞かせ

Ⅰ　主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年，以下「29年指導要領」とする。）外国語では，「聞くこと」「話すこと」に加え，「読むこと」「書くこと」が扱われており，「読むこと」の言語活動に関する事項として，「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を，絵本などの中から識別する活動。」[1)]が示されている。そのため，平成30年度からの移行措置に向けて，これまでの外国語活動に「読むこと」の活動をどのように取り入れて教科型の学習を行っていくのか考える必要がある。

所属校の第６学年児童に行った外国語活動に関するアンケートでは，英語の言葉や文を読めるようになりたいと回答した児童は87％おり，その理由として，「文章を書いた外国人の気持ちが分かるから。」「聞いたり話したりするだけでは分からないことも知ることができるから。」と記述するなど，読むことに対する興味・関心が高い児童が多いことが分かった。しかし，一方で13％の児童は「読めるようになるか不安。」「どうやって読むのか分からない。」と記述するなど，読むことの学習に対して不安を感じていることが分かった。

これらのことから，外国語活動において，児童に読むことに慣れ親しませる指導の工夫が必要であると考える。

そこで本研究では，読むことに慣れ親しませるために，児童が絵本を使って読み聞かせをする活動を取り入れた単元づくりを行う。具体的には，児童が下級生に読み聞かせをする活動を単元のゴールの活動として設定し，ゴールの活動に向けた各時間の課題を明らかにすることで，単元を通して相手意識をもって活動に取り組ませるようにする。そして，ゴールの活動に向けた各時間の活動において，児童が教師等による読み聞かせを聞くことにより，音声で十分に語句や表現に慣れ親しみ，聞いた音と書かれた語句を結び付けられるようにする。さらに，児童が読み聞かせをすることにより，語句を見ながら声に出して読めるようにする。このような単元を通して，児童に読むことに慣れ親しませることができると考え，本主題を設定した。

Ⅱ　研究の基本的な考え方

１　読むことに慣れ親しませる外国語活動について

(1) 読むことに慣れ親しむとは

「29年指導要領」では，外国語科の目標として，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読むなどして，自分の考

えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うと示されている。

また，「29年指導要領」では，「読むこと」の目標として「ア　活字体で書かれた文字を識別し，その読み方を発音することができるようにする。」「イ音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。」[2)]と示されている。

さらに，小学校学習指導要領解説外国語編（平成29年，以下「29年解説」とする。）では，児童が語句や表現の意味が分かるようになるためには，その語句や表現を発音する必要があり，文字の音の読み方は，そのための手がかりとなるので，児童の学習段階に応じて，語の中で用いられる場合の文字が示す音について指導することが示されている。

そこで，本研究における読むことに慣れ親しむとは，外国語の文字や語句，表現を見て，文字を識別したり語句の読み方を推測したりしながら読むことであると考える。なお，外国語の文字や語句，表現とは音声で十分に慣れ親しんだアルファベットや簡単な語句，基本的な表現のこととする。

(2) 読むことに慣れ親しませるには

「29年解説」では，アルファベットのａには/ei/という名称以外に，/æ/という語の中で用いられる場合の文字が示す音があると示されている。

また，バトラー後藤裕子（2013）は，読むことの前段階として，子供は，音声言語が音という単位からできていることに気付かなくてはならず，読むことの第一歩は，その音と文字を結び付けるところから始まると述べている。このことから，アルファベットの音に気付かせた後に，その音とアルファベットを結び付けることが必要であると考える。

さらに，伊東治己（2016）は，音読をすることは文章を見ながら表す語句を聞く以上に，文字と音声の繋がりを強化することにつながると述べている。このことから，音とアルファベットを結び付けた後に，児童が声に出して読むことが大切であると考える。

これらのことから，読むことに慣れ親しませるには，まず，アルファベットにはそれぞれに音があることに気付かせ，次に，音とアルファベットを結び付けるようにさせる。その後，語句を見ながら声に出して読ませていくことが必要であると考える。

２　児童が絵本を使って読み聞かせる活動を取り入れた単元づくりについて

(1) 児童が読み聞かせをする活動について

アレン玉井光江（2010）は，児童が音声で十分に慣れ親しんだ言葉について，諳んじるぐらい覚えた後，それらの言葉に対応する文字を目で追いながら声に出して読んでいく活動を通して，子供は読む力を身に付けていくと述べている。このことから，音声で十分に慣れ親しませた語句について，それらの語句を見ながら声に出して読ませていく場面として，児童が絵本を読む活動を設定することが有効であると考える。

また，図書館情報学用語辞典第４版（2013）では，読み聞かせとは，読み手が本や絵本を読んで聞かせることであると示されている。そして，読み手が聞き手とコミュニケーションを図ることに読み聞かせをする意義があると示されている。このことから，音読とは違い，読み聞かせには聞き手という相手がいることで，相手に読んであげたいと読み手に思わせたり，分かりやすく上手に読めるようになるためにはどうしたらよいか考えさせたりすることができると考える。

これらのことから，児童が絵本を使って読み聞かせをする活動は，読み聞かせをするときの発音を意識付け，児童に音について考えさせたり，語句を見ながら声に出して読ませたりするのに有効な活動であると考える。

(2) 児童が絵本を使って読み聞かせる活動を取り入れた単元づくりについて

ア　アルファベットには音があることに気付く活動

アレン（2010）は，音に対する気付きとして，英語を読む場合，基本的に一つの音に対して一つのアルファベットが対応することを理解する必要があると述べている。また，赤沢真世（2016）は，アルファベットには音があることについて，教師が教えるのではなく，目的をもった読み書き活動の中で気付きを高めることの重要性を述べている。そして，気付いている児童もそうでない児童も共に音に対する認識を高めるための活動を繰り返すなど，気付くための働きかけを行うとよいことを述べている。

これらのことから，それぞれのアルファベットについてどのような音があるのかということを教師が教えるのではなく，児童自身に気付かせる必要があると考える。また，アルファベット26文字それぞれに音があることを理解させる必要があると考える。

そこで，児童が読み聞かせをしようとしている絵本に書かれている語句を用いて，語句の仲間分けをする活動を行う。異なる語句の共通するアルファベットが示す音に着目させて仲間分けをさせること

で，児童にアルファベットには音があることに気付かせるようにする。また，それぞれのアルファベットを強調しながら教師が絵本を使って読み聞かせをすることで，児童にアルファベットそれぞれの音について意識させながら，絵本に出てくる語句に音声で十分に慣れ親しませるようにする。

イ　音とアルファベットを結び付ける活動

アレン（2010）は，アルファベットの音についてより認識を高めさせるために，語句の始まりのアルファベットに着目している。

また，渡部良典（2016）は，文字を識別するためには，音と文字の間の対応関係を理解することが大切であり，このような力を育てるためには，複数の選択肢を与え，そこから合うものを選ばせる活動を取り入れることが重要だと述べている。

そこで，児童が読み聞かせをしようとしている絵本に書かれている語句を用いて，教師の発音から語句の最初のアルファベットは何か考え，選択させる活動を行う。児童に語句の最初の音に着目させることで，音と一文字目のアルファベットを結び付けられるようにする。また，教師の読み聞かせを聞くときに書かれている語句をなぞりながら一緒に読んだり，アルファベットジングルの要素を取り入れたカルタ取りゲームなどの活動も繰り返し行ったりする。これらの活動を通して，アルファベットには音があることに気付いた児童が，音とアルファベットを結び付けながら，絵本に書かれているアルファベットや語句を識別できるようにする。

ウ　語句を見ながら声に出して読む活動

久埜百合（2017）は，児童は英語を聞いて意味を理解できるようになると，その語句が表す音に対応する文字を探し出して読んでみようとすると述べている。そこで，音声で十分に慣れ親しんだ語句を用いて，児童が読み聞かせをする活動を行う。音と語句の最初のアルファベットを結び付けながら，児童が絵本に書かれている語句について，推測しながら読むことができるようにする。また，児童が読み聞かせをするときには，指でなぞりながら読ませたり，第４学年児童への読み聞かせのために繰り返し読ませたりするなどの活動も取り入れることで，児童が書かれている語句を推測して，語句を見ながら声に出して読ませることができるようにする。

以上のことから，本研究における絵本の読み聞かせと関連付けた活動を表１に示す。

エ　児童が読み聞かせをする対象について

幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年）では，「言語活動を行う際は，単に繰り返し活動を行うのではなく，児童生徒が言語活動の目的や，使用の場面を意識して行うことができるよう，具体的な課題等を設定し，その目的を達成するために，必要な語彙や文法事項などの言語材料を取捨選択して活用できるようにすることが必要である。」[3)]と示されている。このことから，単元づくりを行う際に，単元を通しての課題となるような単元のゴールの活動を具体的に設定することが大切であると考える。

小学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年）では，異年齢集団による交流について，活動を進める高学年の児童が自分の役割を果たすなどの主体的な取り組みを通して，自分への自信を高められるようにする必要があると示されている。

表１　本研究における絵本の読み聞かせと関連付けた活動

	主な活動名	活動内容
アルファベットには音があることに気付く	・語句の仲間分け	異なる語句の共通するアルファベットが示す音に着目させて仲間分けをする。
	・教師の絵本の読み聞かせ比べ	ＨＲＴとＡＬＴの読み聞かせを聞き比べて，音に対する認識を高める。
音とアルファベットを結び付ける	・アルファベットジングル	アルファベットを見ながらリズムにのってアルファベットの名前読みと音読みを言う。
	・語句の最初のアルファベット選び	語句の音声を聞いて，最初のアルファベットの音に対応する文字を選び，意味とつなげる。
	・アルファベットジングルの要素を取り入れたカルタ取りゲーム	語句の始まりの音を意識して聞き，挿絵が書かれた絵カードを取る。
	・読み聞かせを聞きながらのなぞり読み	音に着目しながら読み聞かせを聞き，読んでいる部分を指でなぞって一緒に読む。
	・マッチングゲーム	語句だけが書かれたカードを読んで挿絵の描かれたカードと合わせる。
語句を見ながら声に出して読む	・自分で声に出して読みながらのなぞり読み	自分が声に出して読んでいる語句を指でなぞりながら読む。
	・児童の絵本の読み聞かせ	絵本に書かれている語句を見ながら声に出して読む。

また，清水万里子（2015）は，高学年児童のやる気を高めてそれを維持するためには，活動を通しての達成感が多いほうが良いと述べている。

以上のことから，単元のゴールの活動として児童が第４学年児童に読み聞かせをする活動を設定し，児童にとって絵本を読む場面が明確になるようにする。読み聞かせの相手を，次年度に高学年となり，外国語活動が始まる第４学年児童とし，児童に，自分たちの読み聞かせをするときの発音を意識させることで，音に対する認識を高めさせることができると考える。また，第４学年児童が読み聞かせを楽しめるようにするためにはどのように読み聞かせを工夫するのか考えさせるなど，相手意識をもって活動に取り組ませることができると考える。そして，自分たちで絵本の読み聞かせをすることができたという達成感を第６学年児童に味わわせることができると考える。

オ　読み聞かせで扱う絵本について

Ｇ.エリス・Ｊ.ブルースター（2008）は絵本には，昔話やおとぎ話のように，すでに母語で子供たちがなじんでいるものだったり，結末が予測できるように物語が展開していくものだったり，いろいろな種類の絵本があると述べている。

また，佐藤・松香（2008）は，英語活動で読み聞かせをするときの絵本を選ぶポイントとして，「語彙やフレーズのくり返しが多く含まれ，リズムが強調されているもの。平易な英文で，英語の量や文の長さが適切であるとともに，子どもに身近で親しみが持てる豊富な言語材料（語彙・文）が含まれているもの。絵が本文と合っており，内容を的確に表現しているもの。」[4)]を挙げている。このことから，本研究で扱う絵本の条件として，語句や表現の繰り返しが多くてリズムよく読めるもの，児童にとって身近な語句や表現が出てくるもの，挿絵と書かれている語句が一致しやすいものが良いと考える。

これらのことから，本研究では，第４学年児童に読み聞かせをする絵本として，条件を満たす複数ある絵本の中から，表２による分析をもとに『Brown Bear ,Brown Bear, What Do You See?』の絵本を一冊採り上げて扱うこととする。

このような単元づくりを行うことで，児童が読むことに慣れ親しむことができることとし，本研究の単元構想図を図１に，単元計画を次頁図２に示す。

表２　『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?』の絵本について

繰り返しの語句や表現について	・「○○,○○,what do you see?」「I see ～ looking at me.」の表現が繰り返し出てくる。
挿絵と語句について	・色と動物を表す挿絵が描かれている。
児童にとって身近な語句や表現について	・色を表す語句 （brown/red/yellow/blue/green/purple/white/black/gold) ・動物を表す語句 （bear/bird/duck/horse/frog/cat/dog/sheep/fish)

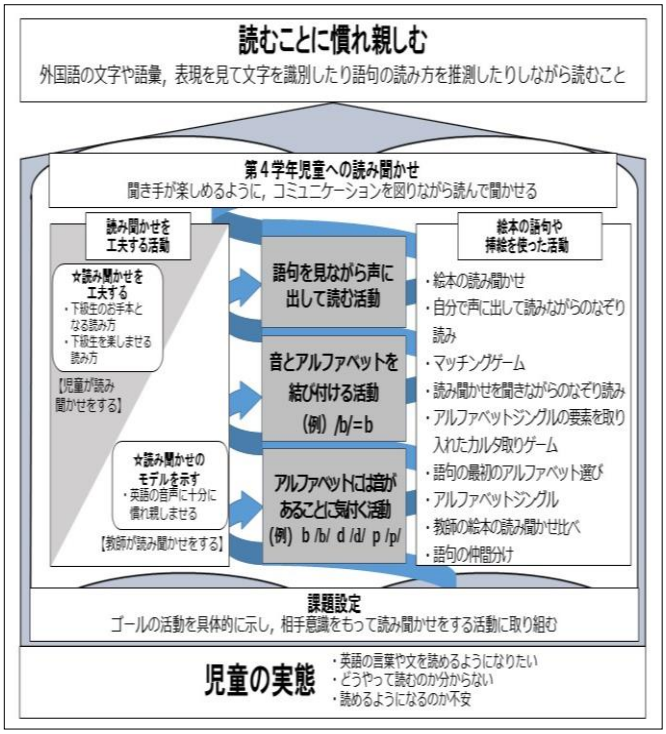

図１　本研究の単元構想図

Ⅲ　研究の仮説及び検証の視点と方法

１　研究の仮説

児童が絵本を使って読み聞かせをする活動を取り入れた単元づくりを行えば，児童は読むことに慣れ親しむことができるであろう。

２　検証の視点と方法

検証の視点と方法について，表３に示す。

表３　検証の視点と方法

検証の視点		検証の方法
児童が絵本を使って読み聞かせをする活動を取り入れた単元を通して，読むことに慣れ親しむことができたか。	①アルファベットには音があることに気付くことができたか。	・振り返りカード ・ワークシート
	②音とアルファベットを結び付けることができたか。	・振り返りカード ・ワークシート
	③語句を見ながら声に出して読むことができたか。	・行動観察 ・事前事後アンケート

時	目標（○） 【慣】:【外国語への慣れ親しみ】 【気】:【言語や文化に関する気付き】 【コ】:【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	主な活動	音に気付く	結び付ける	声に出して読む	【読むこと】の評価規準（☆）と児童の気付きや思い	【観点】評価規準
1	○絵本に出てくる語句や表現に慣れ親しむ。【慣】 ○アルファベットには音があることに気付く。【読むこと】	・ＡＬＴの読み聞かせ ・語句の仲間分け	↕			☆アルファベットには音があることに気付いている。 ｂは「ビー」と読んでいたけど「ブッ」って発音するときもあるんだな。	【慣】色や動物を表す語句を聞いたり，まねて言ったりしている。
2	○日本語とは違う英語の音に気付く。【気】 ○絵本に出てくる語句や表現に慣れ親しむ。【慣】 ○音とアルファベットを結び付けている。【読むこと】	・ＨＲＴとＡＬＴの絵本の読み聞かせ比べ ・アルファベットジングル ・語句の最初のアルファベット選び ・アルファベットジングルの要素を取り入れたカルタ取りゲーム	↕	↕		☆音とアルファベットや語句を結び付けている。 「ブラウン」と聞こえたから言葉の最初のアルファベットは「ブッ」って発音するｂだ。	【気】日本語とは違う英語の音に気付いている。 【慣】発音やリズムに気を付けて話している。
3	○読み聞かせに用いる語句や表現に慣れ親しむ。【慣】 ○アルファベットの文字とその音を結び付ける。【読むこと】	・アルファベット26文字を使ったアルファベットジングル ・語句の最初のアルファベット選び ・ＡＬＴの絵本の読み聞かせを聞きながらのなぞり読み		↕		☆音とアルファベットや語句を結び付けている。 「プッ」て聞こえたからｐと結び付けたよ。	【慣】問いかけなど，４年生を楽しませるための表現について，発音やリズムに気を付けて話している。
4	○読み聞かせの工夫を考え，使用する語句や表現に慣れ親しむ。【慣】 ○音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を声に出して読む。【読むこと】	・ＡＬＴの絵本の読み聞かせを聞きながらのなぞり読み ・アルファベット26文字を使ったアルファベットジングル ・児童が自分で声に出して読みながらのなぞり読み		↕	↕	☆語句や表現を推測しながら声に出して読んでいる。 アルファベットの音を基にしたら，単語が読めそうだ。	【慣】読み聞かせの工夫で使用する語句や表現を用いて話したり読んだりしている。
5	○相手意識をもって読み聞かせをする。（第６学年）【コ】 ○音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を声に出して読む。（第６学年）【読むこと】 ○絵本に出てくる語句や表現に慣れ親しむ。（第４学年）【慣】	・下級生とのマッチングゲーム ・児童の絵本の読み聞かせ		↕	↕	☆語句や表現を推測しながら読んでいる。 発音に気を付けて読もう。	【コ】第４学年児童が楽しく参加できるように読み聞かせをしている。 【慣】絵本に出てくる語句を聞いたり，まねて言ったりしている。

図２　「Story Telling ～英語の絵本を使って読み聞かせをしよう～」単元計画

Ⅳ　研究授業について

○　期　間　平成29年６月20日～平成29年７月18日

○　対　象　所属校第６学年（１学級23人）

○　単元名　Story Telling
～英語の絵本を使って読み聞かせをしよう～

○　目　標

・音声で十分に慣れ親しんだ英語を使って絵本の読み聞かせをしようとする。【コ】

・色や動物を表す語句や絵本に使われている表現に慣れ親しむ。【慣】

・英語で書かれた語句や表現を読むことに慣れ親しむ。【慣（読むこと）】

・絵本の読み聞かせを通して，日本語とは違う英語の音声に気付く。【気】

Ⅴ　研究授業の分析と考察

本研究は，児童が絵本を使った読み聞かせを行う活動を取り入れた単元を通して，読むことに慣れ親しむことができたかについて，次の３点の分析・考察を行う。

１　アルファベットには音があることに気付くことができたか

(1) 振り返りカード

第１時において，ＡＬＴによる絵本の読み聞かせを行った後，単元を通して取り組む課題を話し合わせた。その後，どのように読み聞かせをするのか尋ねたら，「ＡＬＴのような発音で読めたらいい。」と発音に関する意見が出た。そこで，ＡＬＴの発音をまねして言う活動と絵本に出てくる語句の仲間分けをしながらアルファベットには音があることに気付く活動を関わらせて行った。活動中，児童から「ｂが最初に付いている言葉は，最初にビーじゃなくてブッて聞こえる。」「ｄやｇもこれまでと違うように

発音している。」という意見が出た。

この時間の振り返りカードから，主な児童の記述を次に示す。

・知らない違う読み方を知ることができた。
・Ｂは「ビー」とも言うけどちがう言い方もある。
・Ｂが最初につく言葉は最初の音もいっしょだった。

第１時の振り返りカードの主な児童の記述

振り返りの記述から，児童がアルファベットの音に気付いているのが分かる。

しかし，Ａ児の振り返りには，音に関する記述が見られなかった。そこで，次時の学習でアルファベットの音について気付くことができるようにした。

(2) 個の変容

Ａ児は，振り返りカードに「ゲームが楽しかった。」と音に関する記述をしていなかった。そこで，Ａ児にアルファベットの音について認識させるために，第２時では，まず，ＨＲＴとＡＬＴの絵本の読み聞かせを比べる活動を行った。このとき，ＨＲＴがカタカナ英語で読み聞かせをしたことで，他の児童が「ＡＬＴと発音が違うし，この前やった音も違う。」と発言するなど，学級全体をアルファベットの音に着目させることができた。Ａ児は，ワークシートに「ＨＲＴの読み聞かせには変な発音がある。」と音を意識しながら読み聞かせを聞き比べている記述をしている。また，児童に絵本に出てくる語句や表現について音声で慣れ親しませる活動の際にも，ＡＬＴがアルファベットの音を強調して発音した。Ａ児の第１時，第２時の振り返りカードから，アルファベットの音に関する記述を表４に示す。

表４　第１時と第２時のＡ児の振り返りカードの記述

第１時	ゲームが楽しかった。
第２時	発音するのが難しいときもあるけど，これまでの読み方とは違う音があることが分かった。

これらのことから，アルファベットには音があることに気付くことができたといえる。

２　音とアルファベットを結び付けることができたか

(1) 振り返りカード

第２時と第３時の，音とアルファベットを結び付けることができたかという質問項目に係る回答結果を図３に示す。

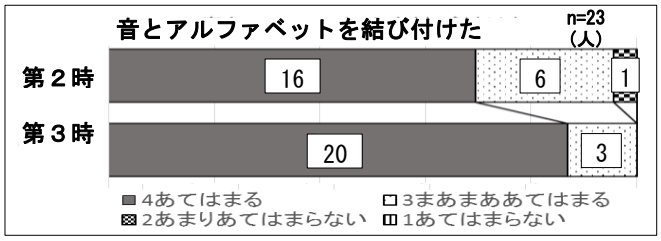

図３　音とアルファベットを結び付けることができたかという質問項目に係る回答結果

図３から，第３時では23人全員が肯定的回答をしており，音とアルファベットを結び付けることができたことが分かる。

次に，表５に第２時と第３時の音とアルファベットを結び付ける活動に関する主な児童の記述を示す。

表５　音とアルファベットを結び付ける活動に関する主な児童の記述

第２時	・一つ一つ音がある。だから，音を聞いたら文字が分かる。 ・最初の発音を聞くとどのアルファベットかが分かった。
第３時	・アルファベットジングルで，言葉の最初の文字がいっしょだと音が同じになる。 ・最初のアルファベットの音だけでなく，二つ目三つ目のアルファベットの音も分かった。 ・アルファベットの音に気を付けて文字を読めば，絵本が読み聞かせできると思う。

第２時では，前時のアルファベットの音について学んだことを意識して結び付けている記述がたくさん見られた。また，記述内容も，第２時では結び付けたことに関するものが多かったが，第３時では，語句の最初のアルファベット以外の音に関する記述が増えるなど，音に対する認識が高まっている内容がたくさん見られた。さらに，第３時では，様々なアルファベットと音を結び付けたことを読み聞かせにどう生かしていくのかという記述もあった。

これらのことから，児童が音とアルファベットを結び付けていることが分かる。

(2) ｆの音とアルファベットを結び付ける活動について

音と文字を結び付ける活動において，ｆの音とアルファベットをどれだけ結び付けられたかという結果を次頁の図４に示す。

第２時において，ｆの音とアルファベットを結び付けられない児童が多いことが分かった。そこで，ｆの音に対して意識させるようにするため，ｆの発音の口の形に着目させたり，最初にｆが付く語句の音を強調しながらＡＬＴが読み聞かせをしたりする

活動を行った。また，児童もＡＬＴの読み聞かせの際に一緒に声に出して読むようにした。

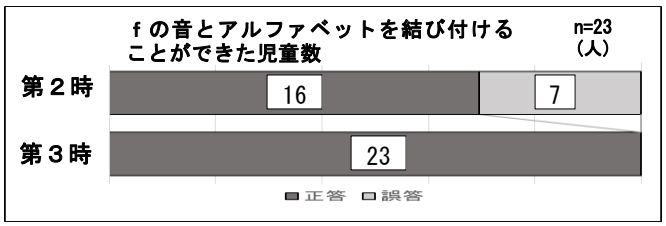

図４　ｆの音とアルファベットを結び付けることができた児童数

第２時では結び付けられなかった児童について，第３時の振り返りの記述を次に示す。

- ｆの音は「フッ」のように声に出していない感じを聞いて結んだらいいと分かった。
- 結び付けられたから，今度からはアルファベットの音を意識して読めるようになりたい。
- ４年生が発音を間違って覚えてはいけないから，学んだｆの音に気を付けて，読み聞かせをしたい。

第３時の振り返りカードの主な児童の記述

児童はｆの音についてアルファベットと結び付けられるようになっただけではなく，第４学年児童に読み聞かせをするときに，お手本となるような発音をしたいと，音についてより意識していこうとしているのが分かる。

これらのことから，音とアルファベットを結び付けることができたといえる。

３　語句を見ながら声に出して読むことができたか

(1) 行動観察

第４時の読み聞かせを工夫する活動では，各ペアで，児童が互いに語句の発音の仕方について，これまで学んできた音に着目して教え合う姿が見られた。そして，どのペアとも第４学年児童への読み聞かせを準備することができた。次に，第４時の振り返りカードの主な児童の記述を示す。

- 読み聞かせが英語っぽく読めるように音に気を付けて読んだ。
- これまでの音の学習で何となく書かれている文字が読めた。
- これまでの学習で聞いた音や発音を思い出しながら読み聞かせの工夫をすることができた。

第４時の振り返りカードの主な児童の記述

また，第４時では，ＡＬＴの読み聞かせを通して「I see children.」にはこれまでの「I see a red bird.」などと違ってａがないから「ア」と発音しないと気付くことができたり，「us」という語句について，これまでのアルファベットの音の学習を生かして読み方を推測したりすることができた。

次に，第５時の，語句を見ながら声に出して読むことができたかという質問項目に係る回答結果を図５に示す。図５は欠席者３人を除く20人の回答結果である。

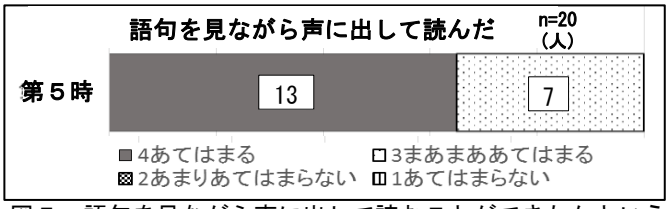

図５　語句を見ながら声に出して読むことができたかという質問項目に係る回答結果

図５から，第５時では20人全員が肯定的回答をしており，第４学年児童への読み聞かせにおいて語句を見ながら絵本を読むことができたことが分かる。

(2) 事前・事後アンケート

事前・事後アンケートによる，英語の言葉を読むことができるかどうかに関する児童の自己評価を図６に示す。

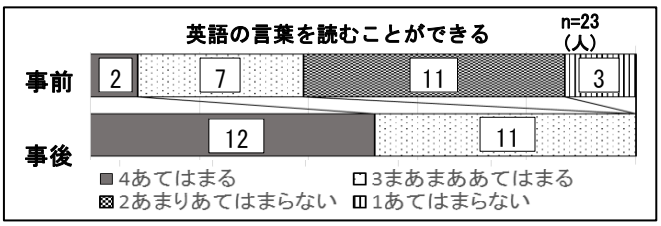

図６　英語の言葉を読むことができるかどうかに関する児童の自己評価

図６から，事前では９人が，事後では23人全員が肯定的回答をしている。さらに，単元終了後の主な児童の記述を次に示す。

- この授業をする前は，英語をほとんど言ったり読んだりできなかったけど，声に出してできるようになった。
- 読み方が分かってていねいに読み聞かせをしたら４年生も楽しそうな顔をしてくれた。
- 読み聞かせをしたら本が読めるようになった。
- イラストなしでも読めるようになった。

単元終了後の振り返りカードの主な児童の記述

児童全員が読み聞かせをできたこと，読むことができるようになったという内容の振り返りを記述し

ていたことから，児童が読めるようになったと考えることができる。

これらのことから，語句を見ながら声に出して読むことができたといえる。

以上のことから，児童が絵本を使って読み聞かせをする活動を取り入れた単元づくりは，読むことに慣れ親しむために有効であったといえる。

４　読むことへの興味・関心について

事前・事後アンケートによる英語の言葉や文を読むことへの興味・関心に関する児童の自己評価を図７に示す。

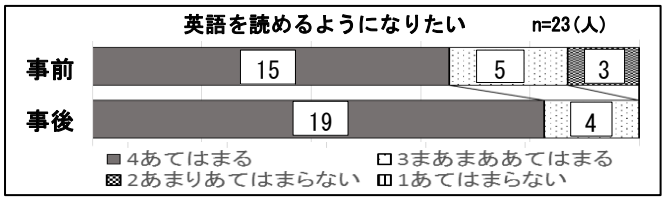

図７　読むことへの興味・関心に関する児童の自己評価

図７から，授業後には，英語を読めるようになりたいと読むことへの興味・関心が高まっていることが分かる。図６の事前で「あまりあてはまらない」と回答したＡ児，Ｃ児，Ｄ児は，事後にはＡ児が「あてはまる」，Ｃ児，Ｄ児は「まあまああてはまる」と回答している。それぞれの児童の単元終了後の振り返りの記述を表６に示す。

表６　Ａ児，Ｃ児，Ｄ児の単元終了後の振り返りの記述

Ａ児	・読み聞かせを繰り返すと，言葉が読めるようになったから，他の本も読んでみたい。
Ｃ児	・ｙやｆなどの難しいアルファベットを読めるようになったから，違う言葉も読んでみたい。
Ｄ児	・絵本を読むことによって，英語を読む力が身についた。レシピや料理の本など読んでみたい。

このような記述から，どの児童も読むことへの興味・関心が高まっていることが分かる。

さらに，第５時の第４学年児童の振り返りカードには，「６年生のように本を読んでみたい。」「６年生みたいに英語が読めるようになりたい。」と第６学年児童の読み聞かせに対して肯定的な感想がたくさん見られた。第４学年児童も読むことへの興味・関心が高まっていることが分かる。

これらのことから，第６学年児童だけではなく，第４学年児童も読み聞かせの活動を通して，読むことへの興味・関心が高められたと考える。

Ⅵ　研究のまとめ

１　研究の成果

児童が絵本を使って読み聞かせをする活動を取り入れた単元づくりを通して，児童がアルファベットには音があることに気付いたり，音とアルファベットを結び付けたり，語句を見ながら声に出して読んだりしながら，読むことに慣れ親しむことができることが分かった。

２　研究の課題

○　本研究では１種類の絵本のみを扱ったが，今後は，児童が学んだことを活用したり，より読むことに慣れ親しんだりすることができるように，児童が読み聞かせをする絵本を複数扱えるようにするなど，単元計画を改善していく。

○　本研究では，読むことに慣れ親しませるために読み聞かせをする活動を取り入れた単元づくりを行った。今後は，書くことに慣れ親しませるために，音声で十分に慣れ親しんだ絵本に出てくる語句を書き写したり，絵本の文の一部を別の語句に替えて書いたりするなど，書く活動も取り入れた単元計画に改善していく。

【引用文献】

1)　文部科学省（平成29年）：『小学校学習指導要領』p. 141
2)　文部科学省（平成29年）：前掲書p. 138
3)　文部科学省(平成28年)：『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』p. 197
4)　佐藤久美子・松香洋子（2008）：『きょうから私も英語の先生！小学校英語指導法ガイドブック』玉川大学出版部 p. 110

【参考文献】

Bill Martin Jr/Eric Carle（1992）:『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?』Henry Holt and Company, LLC
文部科学省（平成29年）：『小学校学習指導要領解説外国語編』
卯城祐司・アレン玉井光江・バトラー後藤裕子（2013）：『リテラシーを育てる英語教育の創造』学文社
伊東治己（2016）：『インタラクティブな英語リーディングの指導』株式会社研究社
アレン玉井光江（2010）：『小学校英語の教育法　理論と実践』大修館書店
赤沢真世（2016）：「音と文字をつなげる自主制作ワークブック」『英語教育７月号』大修館書店
渡部良典（2016）：「小学校英語の指導と評価をどうつなげるか」『英語教育１月号』大修館書店
久埜百合（2017）：「教科となる小学校で求められる指導」『英語教育３月号』大修館書店
文部科学省（平成29年）：『小学校学習指導要領解説特別活動編』
清水万里子（2015）:「第１部　第６章　知的好奇心と動機付けを高める指導法～英語力育成を視野に～」『小学校英語教育授業づくりのポイント』株式会社ジアース教育新社
G.エリス・J.ブルースター（2008）：『先生，英語のお話聞かせて！　小学校英語「読み聞かせ」ガイドブック』玉川大学出版部